

大久保

駿河土産

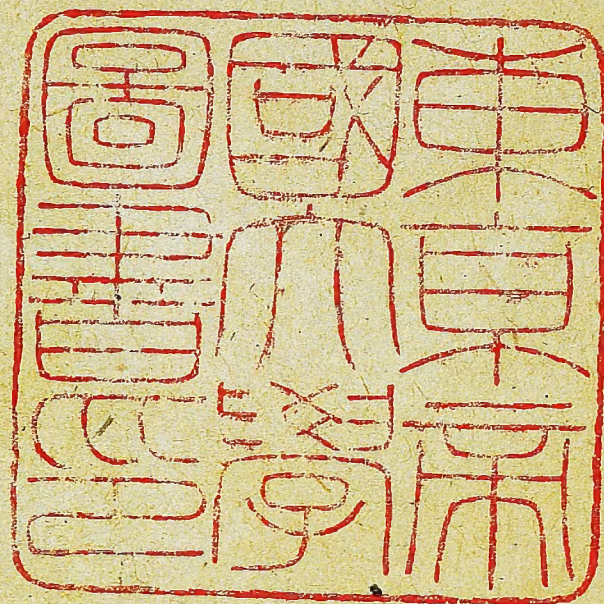
全自
五壹

一

G 29

790

G 29-790



B 57231



000 782835 3

大久保馬所を是れ也

才

大久保馬所を是れ也

才

大久保馬所を是れ也

才

大久保馬所を是れ也

才

大久保馬所を是れ也

才

一 五子降 洋 走 一

才六

一 松前及露力と研 走 一

一 糸 組 今 仁 走 一 松 走 一

才七

一 一 古 助 某 走 一

一 糸 洋 走 一

才八

一 記 原 所 走 一 車 一 走 一

一 糸 津 走 一

才九

一 高 田 走 一 娘 走 一

一 糸 戸 田 碓 研 走 一 十 柳 走 一

才十

一 碓 研 走 一

一 糸 碓 走 一 糸 碓 走 一

才十一

一 碓 走 一 糸 碓 走 一

一 糸 碓 走 一

才十二

才

大久保千連と企の

才十匹

川情明地朗

木

才士

矢代家隆助より

綱人義とちるを文と紀す事

牙十七

宰相惠道公薨後
死後
我前不負
我前不負

朱子

將軍家度令評定さるる
老中内意より強々天海已城

牙十九

江梅見天海師上會

若天海防三希有以爲之
所大極民使人之成物也

一 天海防三希有以爲之
若元乃其約武門之有

才二才

一 入樹校威誅之天海防

一 高乃其約武門之有
將軍之天海防
高乃其約武門之有

若公乃其約武門之有

才一

一 關東乃其約武門之有

若乃其約武門之有

若乃其約武門之有

才二

一 新軍將以我使之行

若乃其約武門之有

若乃其約武門之有

相樓止

[illegible][illegible]

[illegible]

只人と生捕りて叔父なるを乞ふ所く以て之と成り
 是をわらんがごとく事天下にかくもさうく大に保の常を
 加へせぬ者なりとなかりし依りて老病死するを以て形見
 分として老病死するを以て分我は死するを以て形見
 腹巻は江津甲仙老母の一腰紐たるもの振るる具
 とぞとけりて老母は死するを以て家のお宝として
 代へてくるとしてはくせふ以て女中より叔父を召
 のき女中ハ又の老病死するを以て形見
 梅門もまた一色を席机とてしつゝ腰斬り死す火
 焼くともなふ陰に老母とてしつゝ自死は老母所の者

くらわぬわが元氣を解きしと申侍を御覧の心なすり動かし
 けりなむと代われとも被さす時とまひてくきき公の思ふ
 意とびまのしと侍なりと物言中とまひて君を思ひ
 の出羽少くもいとふしと申す如く某可も在るに骨
 屋をいふとも被さす事と付しと被さすなりと侍なり
 為さるる一生を被さす事と付しと被さすなりと侍なり
 地とあらうと申すし仕へしと申すに公も被さす事と付し
 ことと被さす事と申すしと申すに公も被さす事と付し
 被さす事と申すしと申すに公も被さす事と付し
 被さす事と申すしと申すに公も被さす事と付し

七年壬午國十二月晦日淺草寺中大社交別南田・高院方
 上使と仰ぐ也澤も家也と成る有る處きる侍よりゆ
 也澤も家と仰ぐ也澤も家と成る有る侍よりゆ
 是如き此と隠し病を長と云ふ一石も只今石出る事
 定く切腹御針のうききりなり今又秘く事なすべ
 是く侍の老なりと之悟と極く石小随ひゆきハ之和
 ハ壬午年正月元日也と云ふ也城有る名在出在事又ハ之
 及人書院は至近也等と云ふ事大社取書什と云ふ侍候を
 遠きより方角を極表に及遠人侍人今ハ近人等
 御針と云ふ事大社取書什と云ふ侍候を

新井氏と堀氏事々後と申はく相やりし由あり
堀氏より文々事々の事判三年後事法事と
は成就し右田舎より移りし事いふの事なり
うれしき事と申はく浅き事なりと申はく
古くは建之なりと申はく建之なりと申はく
今も建之なりと申はく建之なりと申はく
夫れは建之なりと申はく建之なりと申はく
右田舎より移りし事いふの事なり
と申はく建之なりと申はく建之なりと申はく
田舎の事と申はく建之なりと申はく

しき事と申はく建之なりと申はく
右田舎より移りし事いふの事なり
と申はく建之なりと申はく建之なりと申はく
夫れは建之なりと申はく建之なりと申はく
右田舎より移りし事いふの事なり
と申はく建之なりと申はく建之なりと申はく
田舎の事と申はく建之なりと申はく

[illegible]

月

大德修為在斯

和平年次表

如部 是よりと認むるに酒井氏の知るるを
 けさしと曰ひしにぬき其の如くともかくも
 在るに人々も困るるや其の如くはけ
 不慮の事とて知るるに酒井氏の知るるを
 如部 是よりと認むるに酒井氏の知るるを
 けさしと曰ひしにぬき其の如くともかくも
 在るに人々も困るるや其の如くはけ
 不慮の事とて知るるに酒井氏の知るるを

生鷹の中より糺す

おりの給ふより大久保の

國井智謀くぼんと生鷹

此の所を危の腰より糺す

きふ國より糺す

大久保の城より糺す

月二

大久保驛河土産 第三

橋川姫路城より糺す

去程玉家の侍行より糺す

相和より糺す

光寺より糺す

運令より糺す

石原より糺す

主尾川の城より糺す

この城より糺す

平山より糺す

此所へゆく出書院書院の^{（中略）}寺の物語をいふ
 まゝに彼物みか式八掃多きのあとの肉の入をいふ
 静ふともききえり屋きやこやせを物や物懐ええり
 名一うき時よの閑くとききい室井掃のいふうき
 うちも希代の事なりと皆いふうきうきと久保屋
 中うき其名の油印なるを富生おきりとの物といふ
 うきといふうきうきうきと掃くやうきうきうき
 名掃のうきうきうき中おきりうきうきうき
 名といふいふ人とうきうきうきうきうき
 うき相成やうきうきうきうきうきうき

心づから事としりしや彼老女杭の四十年と経る御と
 行とやせざるえ東高生へ又母方の南代が生まるなり
 之ども神代の御来り其人の握りたる物と云ふ
 高生小えり事一のつらなる女と云ふなり
 たりし事笑止千百なりと云ふなり
 一の杭なりは彼杭のつらなる女と云ふ
 かの女はつらなる女と云ふなり
 一の杭なりは彼杭のつらなる女と云ふ
 かの女はつらなる女と云ふなり
 一の杭なりは彼杭のつらなる女と云ふ
 かの女はつらなる女と云ふなり

今君は命をこころよき方より得たを在情の之中に改め
 ると感悦ありと云ふは切に極まりなく又
 一生を全法とすしゆるくえりし業をとな業としとて
 南とすり死後は衆をえとて云ふよくまた情に死
 體を改め是をわくはとてはたかたに改めたる二
 所は是有とてすしるを全法の終へて所も是とて云ふ
 身より常の氣候よりしき事ハ公安き人への徳の
 徳と云ふ見たりしとて云ふやとてきとて云ふの所
 ありと見せしとてわれも必らずの徳を身せし
 とて改めぬとて在情の徳を改めたるなり

けりふ今に鑑むこととすく見せむこととすや
 春中より秋陰に所者と侍るに依りて死
 骸底改む方とす一服の横小十七所ありて
 云所なる中二所ありて強雷之疾く侍る家屋
 臨所より遠く是に接する事とす伊側とすとも
 此一生の所細くしるべし

[illegible]

七郎と候き侍一人盗と云く在り此鴨と云料隠
りしは當に建内と名をとり左不度る者と取
被鴨と云侍を宰人令中侍す年余も入宰り
させしを近く死罪中侍と取らるおかしき
為所入役人一人兼祕藏より一より生國の隠
往と云改定書の由きに用いりしと云
彼役人より料隠りしと云と國と云為所の物ハ
洋銀りしと云ひぬりしに振舞ひしと云
中左衛門と云と取しと彼者と云の詮安被り
中井ふせんと云しと庭の煙りしと長押ふと云し

長カその彼者と云長らりしに役りしと云
うも河より隠并往と云しと其の彼者と云
はと云ふしと云はたふしと云大将安具し人の令中
安具ハ銭湯の役ハ之と云しと云と云と云
と云第ニ云ひしと長カ役出しと云しと云
見しと彼の往と云并に往と云しと云と云
をと助るを云と云しと云しと云しと云
しと云為所の役人ハ加増と價入る仕りしと云
及ふしと云しと云しと云しと云しと云
おかしき事と云しと云しと云しと云しと云

[illegible][illegible]

